



# 2022 後期授業 フィールドワーク レポート

## ■後期授業の目的■

- (1) 社会力を育む-社会を支え、社会を変革していく
- (2) 憲法の立場に立つ公務員、弱者の立場に立てる公務員になる
- (3) 職場で求められる実践的な知識・技術の基本を身につける

1月13日(金)

## 菊池恵楓園 歴史資料館

知識を知らないことはとても怖いことだ。知らないといふわからない。正しい知識・理解のために、私も発信していきたい。  
(平岡叶宇/熊本工業高校卒)



スクリーンは、穴の空けられた、あつい壁



実物を含む多くの展示物にひとつひとつ向き合う学生達

### メッセージ

とてもひどい言葉や、多くの嫌がらせの手紙が送られたにもかかわらず、「私たちは必死に生きてきた。この命のバトンをつないでほしい。つらいことがあっても死んだらだめだ」とメッセージを下さっていたことが、とても強く心に残りました。  
(徳永華希/東海大星翔高校卒)



誹謗中傷の手紙の数々に言葉を失う。「昔の話」ではなく、自分が生まれた頃に起きた事件もあることに驚いたり、ネット上の誹謗中傷やコロナ差別と重ねて考える学生もいました。

### 現在を変える努力

私たち人間は歴史から学びます。なぜなら忘れてしまうからです。過去のことから目をそむけず、教訓にすべきだと考えました。  
(坂井優心/専修大学玉名高校卒)



当日午後、さっそくFWの学び、思いを各自発表・共有しました。「民法」の講義にて若い彼らの多様な視点や感覚に、私たち教員も刺激を受けます。現地で学ぶ効果を実感する1日でした。

### 弱者を支えたい

特に印象に残ったのは、当時の裁判の主張の展示です。国の主張は正当化するための証言ばかりでとてもぞっとしました。

私は弱者を支えることができる公務員になりたいと改めて感じました。  
(中山雄志/球磨工業高校卒)

### 人を救う行動選択を

自分を人間とっていないかのような詩が一番印象に残っています。差別が当たり前のような雰囲気にとっても違和感を覚えました。その状況を作り出したのは、医師や公務員です。法律という強力な後ろ盾を持つ彼らに、市民まじりや患者達がかんうはずがない。法律一つで多くの人が苦しみ悲しみ、人生を大きく狂わされる人もいます。その法律の持つ影響力や代償を公務員は視野に入れながら行動するべきだと思いました。  
(田尻遥菜/九州学院高校卒)

1月20日(金)

## 五木村コース

### 【訪問地・内容】

講義:土屋望生さん

(株式会社日添 取締役)

■白滝公園

■ダム建設予定地

■ヒストリアテラス五木谷

ワークショップ:

「五木村でどんなことをしたいか」



ヒストリアテラス五木谷

多数決によって様々なことが決められていくことの不平等さを感じた。また、一つの事象に対して、住む場所による様々な思いがあるのだと実感した。  
(高田悠太/八代清流高校卒)

### 魅力と可能性

五木村の強みをたくさん見れました。

最近山がどんどん開拓されている中、五木村にはきれいな山や川や鍾乳洞があり、自然が素敵でとても貴重だと思います。

そして、村が小さい分、人間関係がとても良いと感じました。土屋さんが、昼食でた豆腐店のご夫婦や地域のおじいちゃんを何度も紹介されていて、これからも村の人達が協力してすごく大きなコトができるんじゃないかと可能性を感じました。  
(北島佳奈人/御船高校卒)



実際に沈む地域を見て、住民・行政それぞれの立場から考えます。(写真左:土屋先生)

### “バランス”感覚

土屋先生の、「何か意見や情報を耳にしたときに鵜呑みにせず、どの立場からの言葉なのかを意識しておく必要がある」という言葉は、三谷先生の授業で出た“バランス”と同じだと思いました。

五木村職員としてしたいことを考えましたが、考えるだけでなく、実戦力、“バランス”が必要だと感じました。  
(杉本和香奈/ルーテル学院高校卒)

### 税金を使う立場

何年もダム建設議論が続いていることを知り、公務員になる人間として、税金の使い方の難しさを知っておかねばならないと思いました。

グループワークでは、移動販売の手配や他地域との遠隔合同授業、ネット回線を増やす、道路幅を広げる、などの意見が挙がりましたが、それらには「税金」が使われるため、現状把握と慎重な判断をしなければならぬと感じました。  
(森下みか/八代清流高校卒)



“木の温かさ”。童心に返る学生達。

### 信頼される公務員になるために

人口減少が進む地域の振興を目指すなかでは、行政と民間企業などが協働することで、それぞれだけではできないことを補い合うことができ、視点の幅も広がると思いました。一方で、損得が偏らないよう配慮しながら政策を考える難しさも感じました。使い道や金額を精査しながらしっかり提示し、住民の声を取り入れながら納得のいく政策をたて、信頼を得ていきたいです。  
(村上楓/九州学院高校卒)



五木村の地域振興について、まちづくり・教育・防災の面から取り組みたいことを話し合う(ワークショップ)。各自の進路に応じた意見が飛び交いました。

1月20日(金)

## 水俣市コース

### 【訪問地・内容】

■エコネットみなまた

講話:永野隆文さん

■百間排水口

■エコパーク水俣

■水俣病歴史考証館(相思社)

講話:佐藤英樹さん・スエミさん夫妻  
(水俣病被害者互助会長)



エコパーク水俣 水俣病慰霊の碑

水俣病は終わった、などと一切思いません。一度破壊された環境はもとへは戻らず、差別で引き裂かれた人間関係は修復が難しい。今回得た正しい知識を身近な人に話していかなければならない。  
(田上紗/専修大学玉名高校卒)

### 障がいを持つ方と働く大切さ

テレビやネットを見ると障がいを持つ方への差別や偏見が続いているように思えます。周りの人が障がいについて勉強し、理解・配慮をすること。さらに、障がいを持つ方から学ぶこともたくさんあると思うので、みなさんが働きやすい職場にすることが大切だと思いました。  
(木村愛菜/熊本信愛女学院高校卒)



永野隆文さん。地域主体で活動される姿は、公務員としての姿勢を考えるきっかけになりました。

### 差別はなくなるのか?

かつてヘドロが流れていたとは考えられない景色に、どれだけの人がどれだけ時間をかけたのかと感心しました。慰霊碑では名簿を中にしまっている間、この世から差別をなくすことはできないという考えがあるように思え、虚しい気持ちになりました。どのように正しいことを広めていけばよいか悩まされました。  
(田中萌望/菊池高校卒)

### 豊かな海への願い

水俣湾は海底まで見えてとても綺麗でしたが、相思社の方の「綺麗な海ではなく、豊かな海を目指す必要がある」という言葉が印象に残っています。エコパーク内には「1983年までここは海でした」と掘られたお地蔵さんがあり、すべてのお地蔵さんは海を向いていて、強い思いを感じました。  
(大西くるみ/北稜高校卒)



エコパーク水俣にて学生撮影の1枚。

### 私は社会と向き合っていく

水俣で起きたできごとに、多くの人は無関心で、暮らしの豊かさや経済発展のための犠牲は省みられなかったことも、水俣病の一因だと思いました。今起きている社会の問題に関心を持ち、傍観者ではなく、きちんと意思表示することが大事だと思います。  
(櫻井風吹/熊本商業高校卒)



水俣病歴史考証館。患者の視点から水俣病問題を学びます。

### 裁判の中身を知りたい

佐藤さんの、「間違っていることが正当化されている世の中に目を向け、発信して欲しい」という言葉を聞き、結果だけ見ていた裁判の中身にも目を向け、人権的問題など疑問の心をもつことの重要性を学んだ。  
(後藤魁星/人吉高校卒)

### 責任の重さを知った

佐藤さんご夫妻に、理想の公務員とはどんな人ですか?と質問してみました。上の人に言われるままでなく自分の物事をはっきり言える公務員、悪いことはしっかり悪いと言える公務員、という答えでした。言葉の重み、責任感ということをごまかす味わったのは初めてでした。  
(上田翼/秀岳館高校卒)